

平成25年度 全国犬・猫飼育実態調査 結果

犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、20,615千頭と減少傾向
(犬：10,872千頭、猫：9,743千頭)

猫の飼育率は昨年から横ばいであるが、犬に関しては 飼育率、飼育意向ともに減少。

一方、現在犬猫を飼っている人たちにとって、ペットは
「生活に喜びを与えてくれる大切な存在」、また「健康面や精神面、及び人と人をつなぐコミュニケーションにおいても重要な存在である」ことが明らかになった。

ペットフードの事業者を中心とした100社（正会員66社、賛助会員34社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：越村義雄】は、平成25年度全国犬・猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。主な結果は次の通りです。

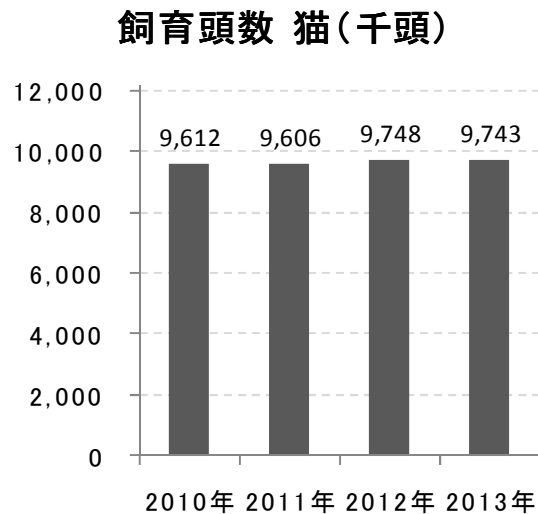
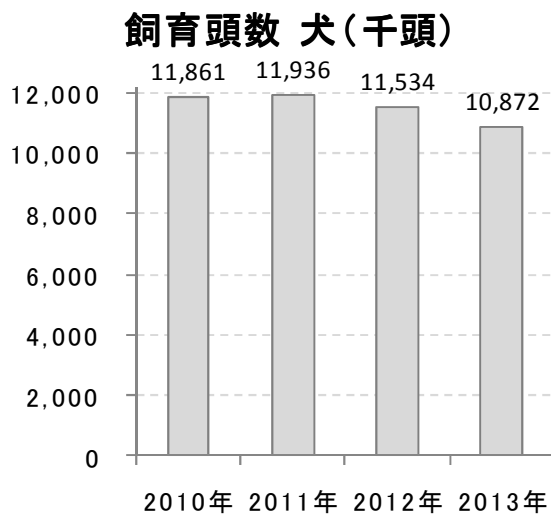
1. 平成25年度 全国犬・猫 推計飼育頭数

全国の推計飼育頭数 犬：10,872千頭、猫：9,743千頭。

時系列でみると、猫の頭数は昨年とほぼ同じ、犬の頭数は減少傾向にあります。

	世帯数 (単位：千)	飼育世帯率	飼育世帯数 (単位：千)	平均飼育頭数	飼育頭数 (単位：千)
<犬>	54,594.7	15.8%	8,629	1.26	10,872
<猫>	54,594.7	10.1%	5,536	1.76	9,743

尚、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



2. 平成25年度 犬猫の年代別現在飼育状況

年代別での飼育状況をみると、50才代での犬及び猫の飼育率が最も高く、次いで60才代となっています。また30才代では犬及び猫の飼育率が最も低い結果となりました。

() は昨年の数字

	犬	猫
全年代	15.8% (16.8%)	10.1% (10.2%)
20代	15.1% (14.8%)	9.0% (9.1%)
30代	12.7% (13.3%)	9.0% (8.2%)
40代	15.1% (16.1%)	9.8% (10.3%)
50代	20.0% (21.4%)	11.8% (12.1%)
60代	16.4% (18.2%)	10.9% (11.3%)

3. 平成25年度 犬・猫平均寿命

犬全体の平均寿命は14.2歳、猫全体の平均寿命は15.0歳でした。犬は、超小型犬、小型犬の寿命が長くまた、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は16.0歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は13.2歳と寿命に大きな差ありました。犬も猫も、寿命が延びてきていることがわかります。

4. 平成25年度及び平成24年度の飼育意向率

今後の飼育意向は、犬が26.8%、猫が16.8%で、昨年から減少傾向にあります。

飼育意向のある方々が犬あるいは猫を飼育できるような環境の整備やサービスの向上が将来に向けての飼育頭数拡大に必要といえます。

	犬	猫
平成25年度飼育意向率	26.8%	16.8%
平成24年度飼育意向率	30.4%	18.2%

5. 平成25年度 生活に喜びを与えるもの

犬、猫飼育者ともに、生活に喜びを与えるものとして多くの人々が「ペット」をあげています。ペット飼育者にとって、ペットは「家族」と同じくらい生活に喜びを与えてくれる存在だということがわかります。因みに、猫飼育者の間では、ペットがNo.1に、犬飼育者の間では、家族に次いでNo.2にペットがランクされました。(複数回答)

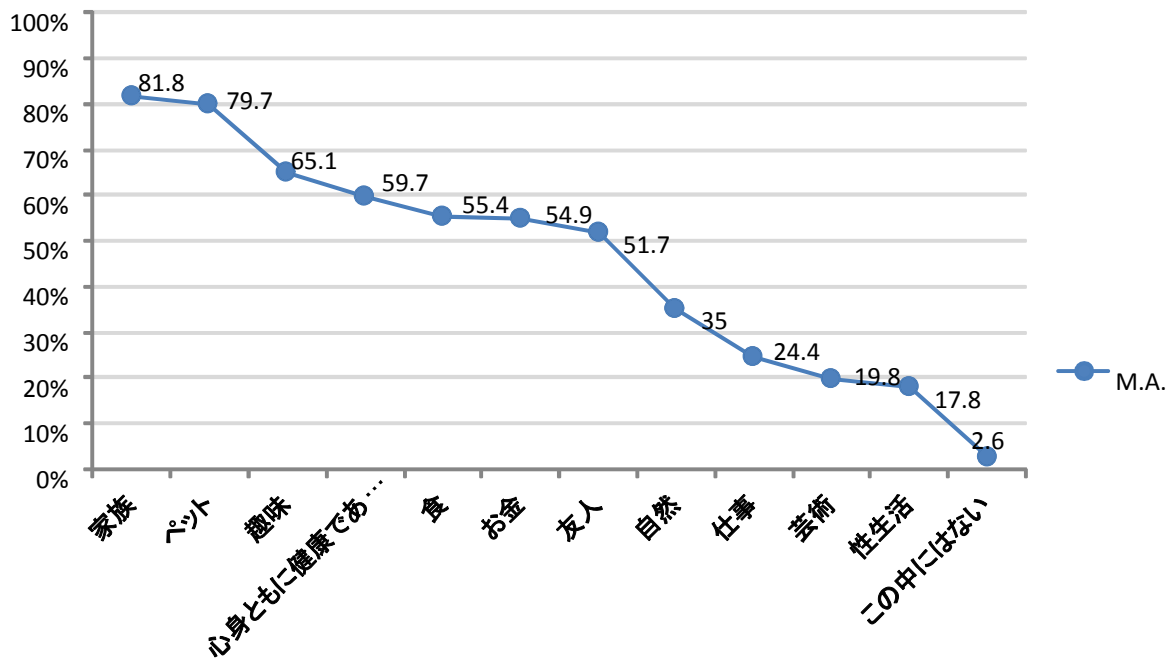
猫飼育者

1. ペット、
2. 家族、
3. 趣味

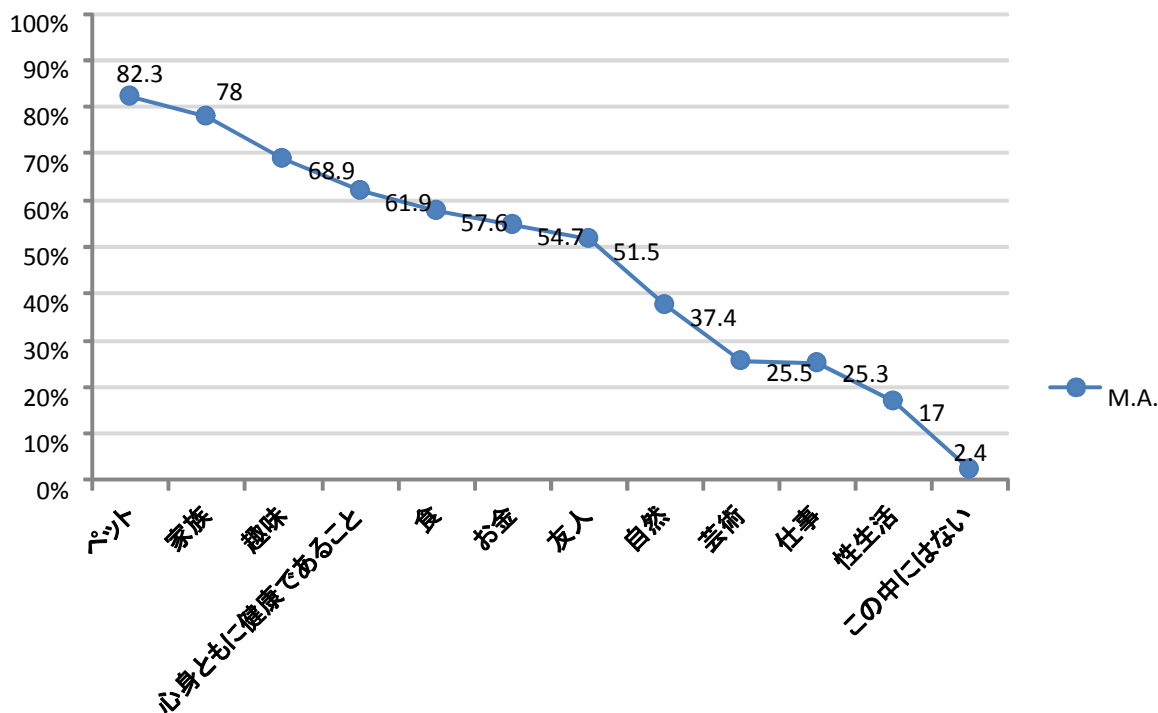
犬飼育者

1. 家族、
2. ペット、
3. 趣味

生活に喜びを与えるもの 犬飼育者



生活に喜びを与えるもの 猫飼育者



6. 平成25年度 ペットを飼う効用

犬又は猫の飼育者はペットを飼う前と比べて、情緒面、コミュニケーション、健康など、様々な効用があることが明らかになりました。

1 6歳未満の子供の場合

- 心豊かに育っている	67.8%
- 生命の大切さをより理解するようになった	59.0%
- 家族とのコミュニケーションが豊かになった	54.3%

高齢者の場合

- 情緒が安定するようになった	42.4%
- 寂しがることが少なくなった	42.1%
- ストレスを抱えないようになった	34.0%

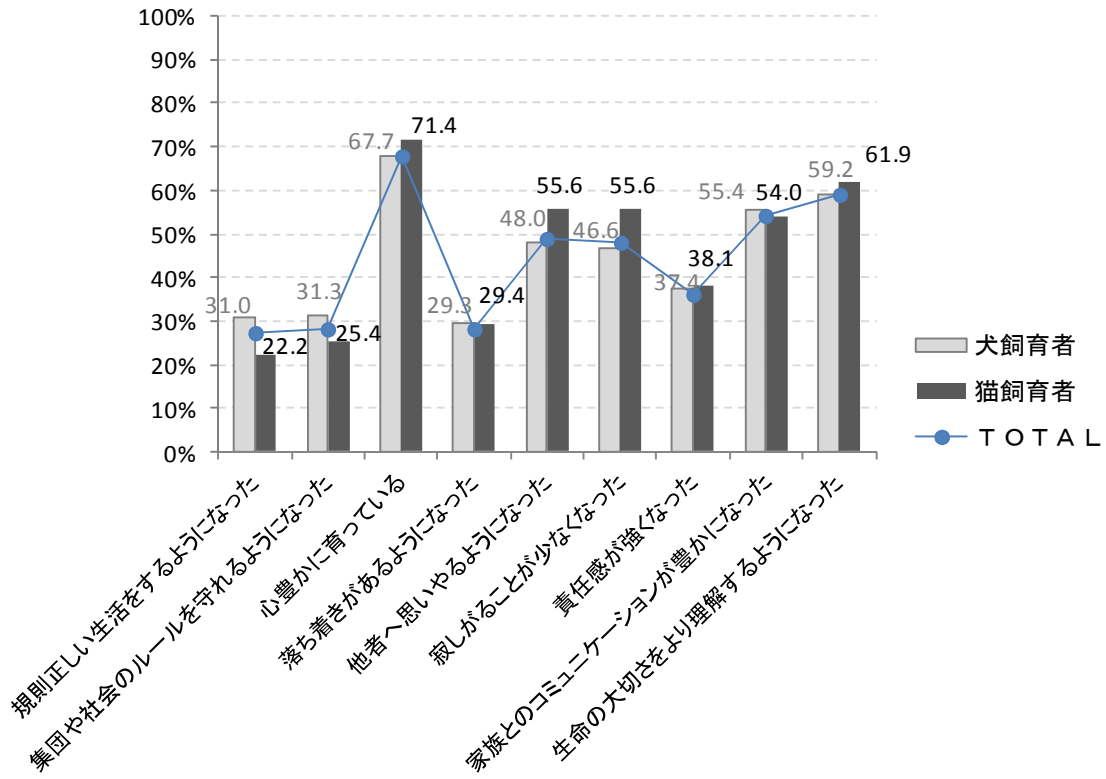
夫婦関係の場合

- 夫婦の会話が多くなった	55.4%
- 夫婦の関係がなごやかになった	42.5%
- 夫婦で過ごす時間が多くなった	32.1%

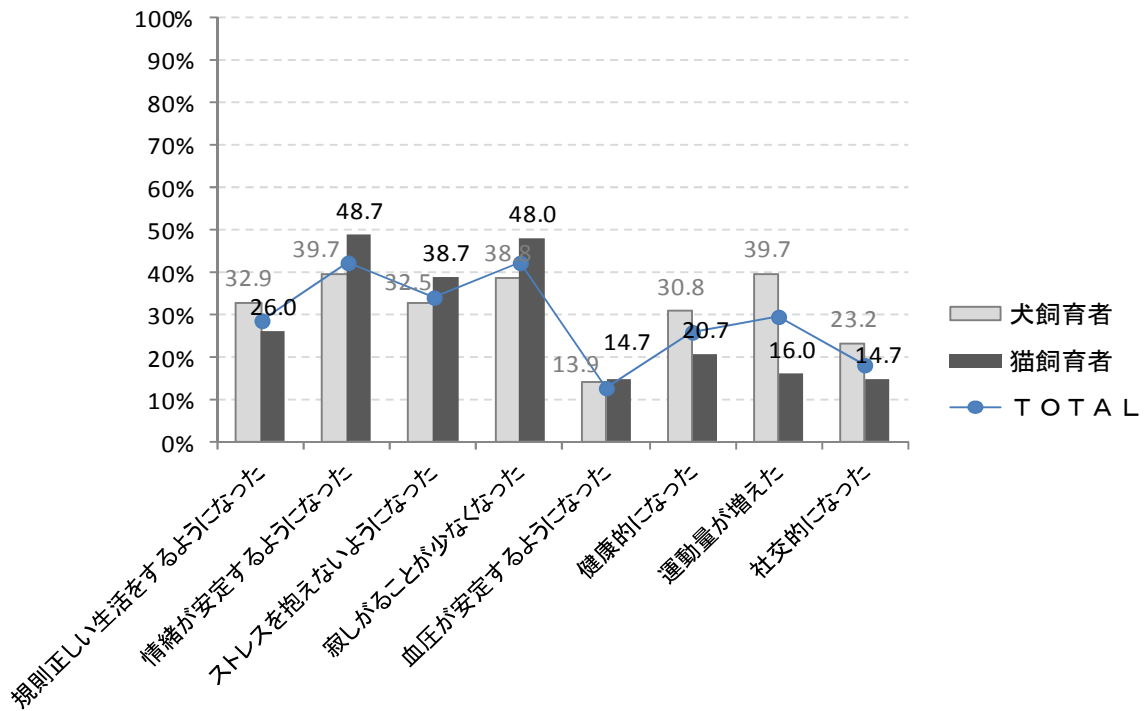
自分自身の場合

- 生活に潤いや安らぎを実感できるようになった	55.3%
- 孤独感を感じなくなった	52.7%
- ハリのある生活が送れるようになった	40.6%

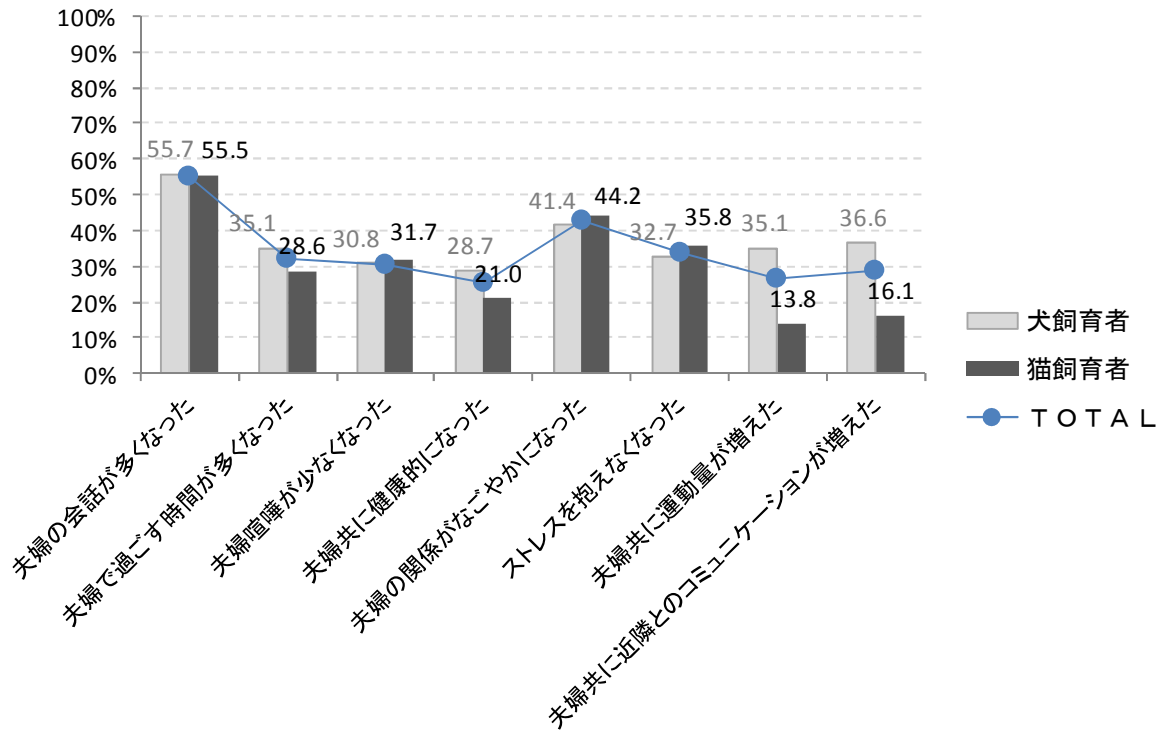
ペット飼育の効用 16歳未満の子どもについて



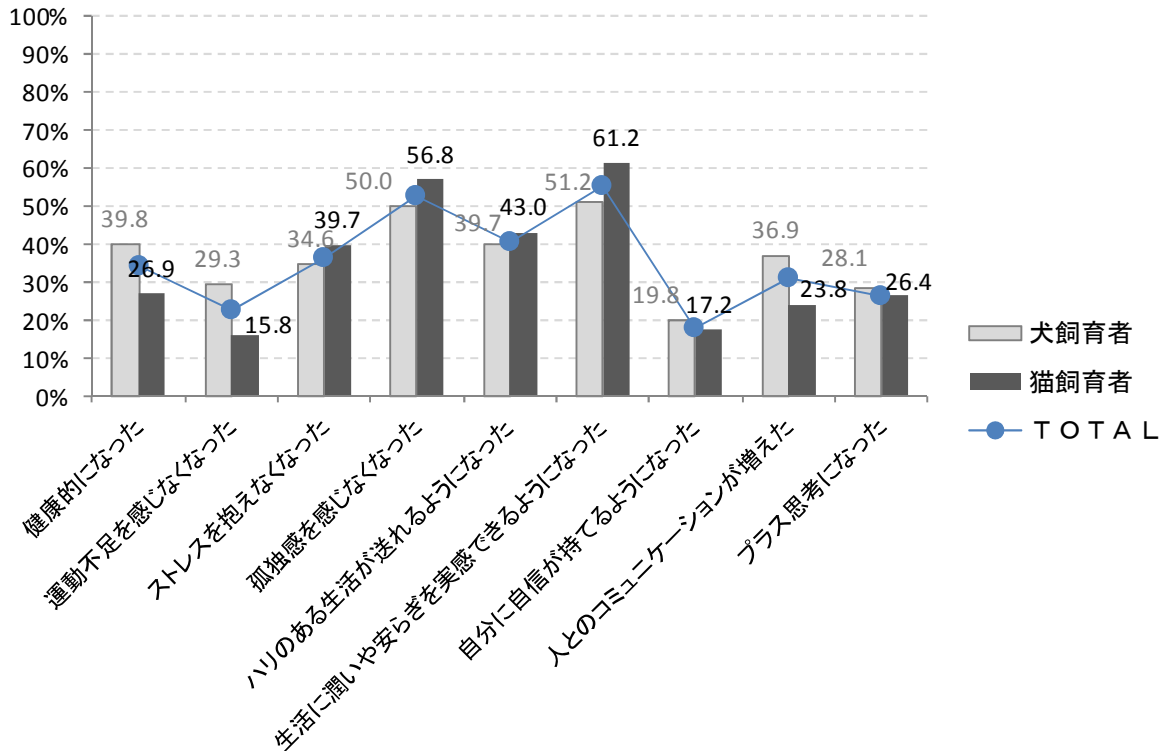
ペット飼育の効用 高齢者(65歳以上)



ペット飼育の効用 夫婦関係



ペット飼育の効果 自分について



7. 平成25年度 ペットフードのタイプ別利用率（複数回答）

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が9割近くあり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、犬、猫ともに「おやつ」をあげる人が増えてきています。

*今年度から「ペット用療法食」を項目に追加しました。

ペットフードのタイプ	犬	猫（外猫を除く）
市販のドライタイプ	85.6%（87.9%）	91.6%（94.7%）
市販のウェットタイプ	24.3%（25.6%）	50.0%（51.7%）
市販の半生タイプ	16.9%（17.6%）	11.8%（11.3%）
市販のおやつ	34.2%（33.4%）	19.3%（17.2%）
手作りのペット用食事	13.1%（13.5%）	4.1%（5.0%）
人間の食事の残り	9.0%（9.7%）	5.0%（4.8%）
その他	3.0%（3.9%）	3.0%（5.2%）
ペット用療法食 *	6.1%	9.8%

以上